

校章の由来

1796年11月21日「聖マリアの奉獻」の祝日に、南仏のチュエイにおいて、創立者マリー・リヴィエは四人の同志と共に、神に身をささげ、青少年のキリスト教的教育を目的とする教育修道会を創立した。ここに聖母奉獻修道会が誕生し、会の紋章として AVE MARIA の頭文字 A と M を刻んだ“しるし”が与えられた。

賢明学院の校章は、それを受け継いだもので、聖母マリアこそが学院の保護者であることを示し、学院の設立母体である聖母奉獻修道会および修道会が経営する全世界の姉妹校に共通の“しるし”であり、絆となっている。現在全世界に122校 約40,000人の園児・児童・生徒が同じ校章のもとに創立者の精神を受け継いで学んでいる。

この学院に学ぶ生徒たちが、「この方の言うとおりにしなさい。」(ヨハネ 2:5)とキリストを指し示された聖母マリアを母と仰ぎ、忠実な子どもとして、熱心に勉強に励み、人びとに奉仕する人に成長することを願っている。



中学・高等学校



小学校



幼稚園

A と M の組み合わせ文字による校章を基本としているが、小学校、幼稚園においては、児童や園児、保護者にもはっきりと分り、帰属意識をもてるように「小」・「幼」の文字を入れている。

校旗

古代から旗は一致と団結の「しるし」として用いられ大切にされてきました。国旗は、そこにあらわされている色や図柄によって国の歴史と建国の意思を表しています。そして、国全体の一致団結を誓っていることがあらわされています。さらに国旗のもとに国民が心をつにして、豊かで平和な国になることを誓っています。

校旗も国旗と同様の意味を持っています。校旗を仰ぎ見るたびに園児・児童・生徒・教職員・保護者・卒業生、賢明学院に所縁のある人々すべてが賢明学院の教えを思い出し、日々の生活を新たにする勇気を持ちます。その勇気を与えてくれる力を校旗は持っています。

賢明学院の校旗は「祈る・学ぶ・奉仕する」精神を確認し、実行する強い意志を一人一人が誓う象徴であり、ここに学ぶすべての園児・児童・生徒の絆を表しています。校旗は私たちの、一致と連帯を賢明学院のすべてを表しています。

資料

教育施設総数 (保育園, 幼稚園, 小・中・高校, 大学, その他) : 122校

アフリカ 20 (校)

アジア 13 校

アメリカ 22 校

ヨーロッパ 17 校

フランス 50 校

およその生徒数 : 40,000 (人)